



R.I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2312号

事務所 静岡県三島市泉町9-8
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 平出 利之 幹事 赤池 克斗



広重版画より 三島 朝霧

第2383回例会

2024.4.11晴

司会

南木一仁君

ロータリーソング

「我等の生業」
指揮 小塚英樹君

会長挨拶

会長 平出利之君

「豚の皮膚から作られた角膜で失明者20名の視力を回復させることに成功」という見出しのものを紹介したいと思います。これはスウェーデンの大学で研究された人工の角膜です。現在世界中には1200万人以上の方が失明状態にあるそうです。そして角膜の移植しか回復させる方法はないそうです。角膜は目の最も表面にある透明な部分であり、物を見るためのレンズとして重要な役割を担っています。そこで研究者達は人間や豚の皮膚には角膜の材料となる大量のコラーゲンが含まれているため、このコラーゲンによって作られた角膜を開発しました。移植をした20名のうち、3人の方は視力が1.0まで回復したそうです。それから過去に人間の角膜を移植した場合、拒否反応を防ぐ為に数年にわたり免疫抑制剤を飲み続けなければなりません。しかし人口角膜の場合は約8週間免疫抑制機能のある目薬で済むそうです。リスクが少ないということです。医療技術が進歩し続けていますが、人口角膜は朗報で更なる開発を期待したいと思います。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 山本孝介さん
(木村君・平出君・伊丹君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メンバー	修正出席率
前々回	40/50	80.00%	43/50	86.00%
今回	38/50	76.00%	会員総数	53名

欠席者 秋山君、芦川君、岩崎君、窪田君、清水君、須田君、杉崎君、千葉君、橋本君、花房君、三田君、渡邊君

スマイルボックス

- ◆栗原(康)君、本日、ちようど誕生日です。誕生日記念と入会記念も重なりました。ありがとうございます。
- ◆鈴木(正)君、4月27日(土)明治大学マンドリン倶楽部定期演奏会をぜひご鑑賞下さい。チケットをお買い求め下さい。私が持っています。

幹事報告

幹事 赤池克斗君

- 1.本日例会の卓話は古屋英将君です。よろしくお願ひいたします。
- 2.次回例会は、4月25日(木)12:30呉竹 地区協議会報告です。
- 3.せせらぎ三島RC創立35周年記念事業 地球理解講座「地球のステージ」が4月13日(土)13:30より三島市民文化会館大ホールで開催されます。
- 4.せせらぎ三島RC創立35周年記念式典
5月17日(金)17:00受付、17:30開会で開催されます。
- 5.会員名簿(手帳)の情報に変更がある方は、事務局までお知らせください。

2023~2024年度
国際ロータリー会長
ゴードンR.マッキナリー

世界に希望を生み出そう

おめでとう

会員誕生日 栗原(康)君、小塚君
入会記念日 栗原(康)君、川名君、
前田(博)君

卓 話

古屋英将君

子曰く、吾十有五にして学に志す・・・。

これは、孔子が晩年、自分の人生を振り返った言葉として、あまりに有名ですが、せんえつながら、私の50年の人生に当てはめてみました。私によれば、吾いまだに学に志さず、三十二にして立つ。四十五にして惑わず。五十にして天命を知る。この先はこれからです。少し、解説すると、32歳で2代目として社長を継ぎ、13年間迷いながら社長を行い、45歳で何となく迷わなくなり、50歳で使命を知る。五十だけピッタリ合いました！！今日はその天命まではいきませんが、使命を知ったとの話しをします。では何故、使命を知ることができたのか？この使命を語るに私の人生を振り返らなければなりません。それを自問自答という表現でお伝えするのですが、私の自問自答の様子をご覧くださいと思えます。自問の古屋英将です。自答の古屋英将です。よろしくお願い致します。

『古屋さん、あなたの人生を振り返って一言で言うところのどのような表現になりますか？』

『私の過去を一言で言うと・・・恥の多い生涯を送ってきました。』
『ほう恥の多い生涯とは・・・尋常ではありませんね。もう少し詳しく聞かせてください』

『嫌です。これは自問自答ですが思い出したくない出来事ばかりなので、表現したくありません。しかしこれだけは言えます。とても多くの方々を支えていただき、そのお陰で、今の私が存在しているということ。今まで関わらせていただいた皆様に、とても感謝しております。』

『ほう、そうすると一言で言うと恥の多い生涯ではなく感謝の多い生涯と言うことですね』

『あっ！！確かにそうですね。感謝することばかりの生涯でした。』
『如何でしたでしょうか？ただ恥の多い生涯を送ってきましたという言葉を使ってみたかっただけのようにも感じますが。今まで、助けていただくことばかりで、本当に出会いに感謝しております。何と言うか、私は出会いの運だけはあって、もし出会いの強運オリンピックがあれば日本代表に選ばれる自信があります。』

人生100年時代における私の使命

いま50歳ですので、残りの人生50年の命をどのように使うか！！
使う命と書いて私の使命は何か！！この使命に付いても自問自答の様子がありますので、ご覧くださいと思えます。

『先ほどは、ありがとうございました』

『今までの人生で感謝しているということは分かりました。でもだから何って感じですが如何でしょうか？』

『確かに、だから何って感じですね。この感謝を通じて恩返しや恩送りをしなくてはという風になりました。何か社会貢献できることはないかと考えている時ある情報に出会いました。』

『ある情報とは何でしょう？』

『それは中小企業における後継者不足という社会問題です』

『確かに、中小企業庁の発表によると2022年の一年間で後継者不足による廃業件数が12,500社であったとのことですね』

『その通りです。しかもそのうちの44%の5,500社が黒字なのに後継者がいないために廃業を選択しなくてはならなかったということです』

『また中小企業庁が発表したこんな統計もあります。現在、70歳以上の経営者のうち後継者不在の会社が50万社以上あり、またそのうちの67%の34万社が事業承継を望んでいるということになります』

『つまり、34万社の経営者が事業承継を望んでいるのに後継者が不在であるということですね』

『ハイ、その通りです。』

『この後継者不足が社会に及ぼす影響は何が考えられるでしょうか？』

『黒字企業なのに廃業を選択する企業が増えれば、雇用の問題、納税の問題、そのことが影響し、地方の衰退の大きな原因となります。最悪の場合、GDPが22兆円も失われる可能性があるのです。』

『確かにそれは大変ですね』

『私は今までの感謝の気持ちの恩返しや恩送りとして、この問題を解決したいと考えております』

『それは頼もしいです』

『如何でしたでしょうか？私の使命は『感謝の気持ちをもって、中小企業の後継者不足問題を解決する』です。』

『では具体的にどのように解決するのかは、こちらも自問自答です。』

『先ほどは、ありがとうございました。』

『では、具体的にどのようにして後継者不足問題を解決するのでしょうか？』

『一言で言うと、企業永続システム(KES)を作り、フランチャイズで全国展開をするというもので、その内容を一言で言うと、後継者の選定・育成・定着を行うのですが、対象企業をホールディングカンパニーの仲間に受入れグループとして事業承継していくというものです。』

『ほう、なかなか難しそうですが、時間軸の計画はありますか？』

『まず、2025年1月にミロクホールディングを設立し、受入れの準備をします。そこから毎年1社～3社の予定で資本提携をする予定です。これらは全て企業永続システムの中で行い、このシステムを標準化し2027年1月からフランチャイズ展開を考えております。』

『では、その中で一番重要なことは何ですか？』

『一番重要なのが、グループ理念・ビジョン・ミッション・バリューを現経営者と後継者候補にも深く理解してもらうことです』

『果たして、それで成功するのでしょうか？』
『成功します』
『なぜ、成功すると言えるのでしょうか？』
『なぜなら、成功すると決めたからです』
『なんか、どこかの研修みたいですね。』
『では、将来の夢は何でしょうか？』
『将来の夢はフランチャイズのホールディングカンパニーを500ホールディングと提携し、永続できる中小企業関連会社を15,000社にし、総売り上げを3兆円にすることです。』

『何となく、夢のまた夢のような気がしますが・・・』

『ありがとうございました』

『最後に一句』

『人の世は、儚き夢か、企業は永久に』

ご清聴ありがとうございました。

(週報担当:町野 暉)